

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画等に基づく事業)

協議会名: 広島市地域公共交通活性化協議会陸上交通分科会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※全系統に係る収支率及び広島市の補助額の目標については、欄外に記載	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者:(有)やぐちタクシー 運行系統:系統①	フレスタロ田南店前～コープ高陽前・矢口駅～フレスタロ田南店前(8.8km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A 1便当たりの平均利用者数3.5人という目標に対し、令和7年度の実績は4.2人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、商業施設と連携した割引制度を実施するなど、利用促進に努める。
事業者:(有)やぐちタクシー 運行系統:系統②	フレスタロ田南店前～コープ高陽前・矢口駅～上矢口上(10.0km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B 1回当たりの平均利用者数5.9人という目標に対し、令和7年度の実績は4.9人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	昨年ルート変更を行った際に、改めて時刻表の周知を行ったところであることから、その後の利用状況を注視しつつ、引き続き、商業施設と連携した割引制度を実施するなど、利用促進に努める。
事業者:(有)中野タクシー 運行系統:上平原線	上平原～JR安芸中野駅前～安芸市民病院(往路8.9km,復路9.0km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A 1便当たりの平均利用者数3.8人という目標に対し、令和7年度の実績は4.4人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、利用状況を掲載した広報誌による周知を行うなど、利用促進に努める。
事業者:(有)中野タクシー 運行系統:山王押手上線	山王桜台～JR安芸中野駅前～安芸市民病院(往路11.3km,復路11.3km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A 1便当たりの平均利用者数4.6人という目標に対し、令和7年度の実績は4.2人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、フリーマーケットの実施を通して乗合タクシーの周知を行うことに加え、来年度からバス停が乗合タクシーの乗降場所の付近に移設され、乗継の利便性が向上することから、乗合タクシーの車中にバス停移設のチラシを配架するなど、利用促進に努める。
事業者:(株)フォーブル 運行系統:大塚西	下城ハイツ上～大原駅・Aシティ中央～下城ハイツ上(13.6km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B 1便当たりの平均利用者数4.9人という目標に対し、令和7年度の実績は4.0人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、フリーマーケットの実施を通して乗合タクシーの周知を行うことに加え、来年度からバス停が乗合タクシーの乗降場所の付近に移設され、乗継の利便性が向上することから、乗合タクシーの車中にバス停移設のチラシを配架するなど、利用促進に努める。
事業者:(有)カオル交通 運行系統:系統1	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆待川駅前～アルゾ前(8.1km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B 1便当たりの平均利用者数4.9人という目標に対し、令和7年度の実績は4.0人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、フリーマーケットの実施を通して乗合タクシーの周知を行うことに加え、来年度からバス停が乗合タクシーの乗降場所の付近に移設され、乗継の利便性が向上することから、乗合タクシーの車中にバス停移設のチラシを配架するなど、利用促進に努める。
事業者:(株)カオル交通 運行系統:系統2	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆待川駅前～アルゾ前(12.0km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B 1便当たりの平均利用者数4.9人という目標に対し、令和7年度の実績は4.0人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、フリーマーケットの実施を通して乗合タクシーの周知を行うことに加え、来年度からバス停が乗合タクシーの乗降場所の付近に移設され、乗継の利便性が向上することから、乗合タクシーの車中にバス停移設のチラシを配架するなど、利用促進に努める。
事業者:つばめ交通(株) 運行系統:系統1	ユアーズ～福田停留所(上)～ユアーズ(9.4km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B 1便当たりの平均利用者数4.9人という目標に対し、令和7年度の実績は4.0人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、商業施設や公民館への時刻表の配架による周知を行うことに加え、地域イベント等への車両の展示を検討するなど、利用促進に努める。
事業者:つばめ交通(株) 運行系統:系統2	ユアーズ～福田停留所(上)～セブンイレブン(11.5km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B 1便当たりの平均利用者数4.9人という目標に対し、令和7年度の実績は4.0人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、商業施設や公民館への時刻表の配架による周知を行うことに加え、地域イベント等への車両の展示を検討するなど、利用促進に努める。
事業者:はと第一交通(株) 運行系統:戸坂ともいきタクシー	戸坂地区(区域運行)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B 1便当たりの平均利用者数3.0人という目標に対し、令和7年度の実績は2.8人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、協賛企業等へのステッカーの貼付による周知を行うことに加え、乗降ポイントマップの見直しを行うなど、利用促進に努める。
事業者:広島交通(株) 運行系統:今吉田フィーダー(56010)	可部駅前～北部医療センター～今吉田公民館(28.6km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A 1回当たりの平均利用者数7.7人という目標に対し、令和7年度の実績は9.2人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、公民館や出張所への時刻表の配架による周知を行うなど、利用促進に努める。
事業者:広島交通(株) 運行系統:今吉田フィーダー(56020)	可部駅前～上大毛寺～今吉田公民館(27.8km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A 1回当たりの平均利用者数7.7人という目標に対し、令和7年度の実績は9.2人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	引き続き、公民館や出張所への時刻表の配架による周知を行うなど、利用促進に努める。
事業者:朝日交通(株) 運行系統:阿戸線(501)	熊野営業所～熊野町役場～初神～新宮～阿戸学校(9.8km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B 1回当たりの平均利用者数6.4人という目標に対し、令和7年度の実績は5.9人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	地元自治会から意見のあったダイヤの見直し等について事業者と協議を進めるなど、利用促進に努める。
事業者:朝日交通(株) 運行系統:阿戸線(502)	阿戸学校～新宮～初神～萩原下～フジ熊野店(7.9km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A 計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B 1回当たりの平均利用者数6.4人という目標に対し、令和7年度の実績は5.9人であり、目標は達成されなかったものの、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保することができた。	地元自治会から意見のあったダイヤの見直し等について事業者と協議を進めるなど、利用促進に努める。

【全系統に係る収支率及び広島市の補助額の目標】

収支率14.3%、広島市の補助額36,049千円という目標に対し、令和7年度の実績は収支率13.5%、広島市の補助額38,634千円(見込額)であり、目標は達成されなかった。

今後、各系統について、上述している利用促進策を行い、改善に努める。